

## プロデュース部門（復興創生担当）

地域未来デザインセンター 特任准教授 藤室 玲 治

### 1 相双地域支援サテライトによる支援活動

相双地域支援サテライトは、被災地域と福島大学をつなぐ現地の拠点として、東日本大震災発生から一年後の2012年6月、川内村に設置した。2023年度は、富岡町、浪江町および福島大学に拠点を置き、被災12市町村（東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う避難指示等の対象となった12市町村。田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村および飯舘村。以下「12市町村」という）を対象に、地域が抱える課題の解決や教育環境の向上、情報発信などの支援活動に取り組んできた。

2023年度には、相双地域支援サテライトの業務を、地域未来デザインセンターのプロジェクト「市民中心主義と産官学民連携で取り組む復興支援活動」の一環として位置付け、福島大学地域未来デザインセンターが重視する「市民中心主義」と「産官学民連携」により、また福島大学の学知と、大学生の自発的な力、12市町村および避難先に定住された住民との広域連携により地域復興支援、教育環境整備、及び企画・連携の各業務に取り組んだ。

なお、サテライトのスタッフは、地域未来デザインセンターで特任専門員として今年度は9名雇用し、福島県より「福島県復興支援専門員」として任命されている。富岡町役場に5名、浪江町役場に2名、福島大学に2名配置し、「地域復興支援」「教育環境整備」「企画・調整」の3業務を分担して担当している（【表1】）。

【表1】福島県復興支援専門員（2023年度）

配置先	分担	氏名
富岡町役場配置	地域復興支援	佐藤孝雄、山田美香、加賀谷環
	教育環境整備	坂地麻美子、櫻井聖子
浪江町役場配置	地域復興支援	高野真幸、伊藤航
福島大学配置	企画・調整	加藤まゆみ、清野哲也（※）

※清野は地域復興支援も担当

なお、本報告は1月末に執筆しており、以下、2月以降は予定している業務を記載している。また、講師等人物名については敬称略で記載している。

#### 1-1 地域復興、帰還促進および移住定住支援

主に地域復興支援を担当する6名のスタッフを中心に、以下の業務を実施した。

##### (1) 被災市町村が抱える課題とニーズの把握と支援

地域復興支援担当スタッフ6名で、12市町村を2自治体ずつ担当し、定期的に各自治体や社会福祉協議会、各種団体、地域住民などにヒアリングを行い、課題とニーズを把握した。

12市町村では、周知の通り、避難した住民の帰還については、一定の数が帰還した後は頭打ちの状況であり、新たな住民の移住・定住に力を入れているが、その取り組み方や課題については、各自治体で様々である。

把握した課題に対して、サテライトとして対応も行った。例えば、飯舘村については、飯舘村社会福祉協議会からの要請により、9月以降、福島大学災害ボランティアセンターの学生に、帰還した高齢者住民向けのサロン活動等に参加してもらうなど対応することができた（11月2日(木)に学生2名、1月12日(金)に学生2名が参加）。

また、楢葉町では、町内の企業・団体で構成されている楢葉町活性化協議会（月1回）に参加し、事業の検討を行うとともに、他の参加機関と連携して地域の活性化に向けた活動を行っている。

## (2) インターンシップ・プログラムの開発と実施

富岡町よりの要望を受け、富岡町の魅力の発掘、交流人口拡大、および移住・定住促進を目的として、富岡町主催のインターンシップ・プログラムの開発と実施を支援した。

2023年度のインターンシップ・プログラムについては、大学生自身のアイデアからプログラムを立案することを特徴として取り組み、5月27日(土)～28日(日)にプログラム考案のための「富岡町のインターンシップを考えよう合宿」（主催：富岡町）を、サテライトも協力して実施した。

その後、8月28日(月)～9月8日(金)に、5月の考案合宿で学生が出したアイデアも盛り込んだ内容で計画された「富岡町地域協働型学生インターンシップ2023年夏」（主催：富岡町）の実施に協力した。

その後、当初の予定では2024年冬にもインターンシップ・プログラムを実施する予定であったが、参加学生獲得のための首都圏等の大学への働きかけ、受け入れ企業の拡充などの課題に取り組むため、実施は中止とし、サテライトでは富岡町役場と共催で、3月2日(土)～3日(日)にかけて、大学教職員対象の富岡町フィールドワーク及び意見交換会を実施することとした。

【表2】 インターンシップ・プログラムの開発と実施（富岡町主催事業への協力、2023年度）

	日程	企画名	参加人数	参加事業所数
1	5/27～28	「富岡町のインターンシップを考えよう合宿」	8	4
2	8/2～9/8	「富岡町地域協働型学生インターンシップ2023年夏」	6	3
3	3/2～3	「大学教職員対象の富岡町フィールドワーク（仮）」	15（予定）	—

## (3) 被災地スタディツアー等の実施

12市町村の現状の発信と、魅力の発掘、交流人口拡大を目指し、大学生等を対象としたスタディツアーやボランティアツアーを実施した。8月8日(火)、9月28日(木)、11月3日（木・祝）、12月25日(月)、1月6日(土)、2月11日（日・祝）には、主に福島大学生・教職員を対象としたスタディツアーを実施した（【表3】参照）。

また、桜美林大学や中央大学等の他大学等が主催するスタディツアー・ボランティアツアーの実施に協力し、プログラム提供や実施協力、福島大学生等の参加のアレンジ等も行った（【表4】参照）。その他、記載していないが、サテライトへの来客者等を対象とした小規模な案内等も実施している。

【表3】 被災地スタディツアー等の実施（福島大学主催事業、2023年度）

	日程	企画名・内容・訪問自治体	講師等	参加人数
1	8/8	中間貯蔵施設視察・被災者による講話および大熊町見学	linkる大熊職員 渡部キイ子	20
2	9/28	東京電力廃炉資料館および福島第一原子力発電所視察	東京電力	19
3	11/3	中間貯蔵施設と大熊町、福島の未来	元大熊町役場参事 志賀秀陽	37

4	12/25	福島第一原発の廃炉の進捗と立地町（大熊町）の帰還者の雇用政策	ネクサスファームおおくま、東京電力	19
5	1/6	浪江町津島地区および東日本大震災・原子力災害伝承館の視察	福島原発事故津島被害者原告団 三瓶春江	16
6	2/9	大熊町・「学び舎ゆめの森」の視察と富岡町・も～も～ファームボランティア体験	学び舎ゆめの森 も～も～ファーム	10
7	2/11	伝承の仲間づくりサミットin大熊（同名企画に参加）	大熊未来塾	3

【表4】他主体実施のスタディツアー等への協力・プログラム提供（2023年度）

	日程	企画名・内容・	参加人数	主催等
1	9/10～13 (9/10は福島大学、福島学院大学も参加)	桜美林大学教育探求科学群のスタディツアー（浪江町、大熊町、富岡町、楡葉町、広野町、いわき市等を訪問）	8、9/10は16	桜美林大学
2	9/12～13	中間貯蔵施設の他、浪江町、富岡町等を視察（昭和女子大学生と教員が参加）	9	NPO法人ガリレオ工房
3	2/8～10	大熊町等を視察（2/9は【表3】No.6のツアーで福島大学生も合流）	20	中央大学

## (4) 首都圏での展示会開催による被災地情報の発信

東京都と福島市、岩手県の3会場で、12市町村で暮らす人たちの原発事故後12年の生きざまを写真や記事で紹介するパネル展「『被災地』福島 十二人の12年」を以下の通り開催する。東京展と岩手展では、トークイベントも開催する。

- ① 東京展：2024年2月3日(土)～9日(金)、隅田公園リバーサイドギャラリー（東京都台東区）。2月10日(土)にクラフトビレッジ西小山（東京都目黒区）でトークイベント（定員20名）
- ② 福島展：2024年2月16日(金)～22日(木)、福島大学附属図書館（福島市）
- ③ 岩手展：2024年3月2日(土)～11日(月)、大槌町文化交流センターおしゃっち（岩手県上閉伊郡大槌町）。3月9日(土)に同会場でトークイベント（定員20名）

## (5) 役場職員等を対象とした研修・交流の機会の提供

12市町村の役場職員、まちづくり会社職員、社会福祉協議会職員およびまちづくりに関心のある住民等を対象に、研修・交流の機会の提供を【表5】の通り行った。

【表5】役場職員等を対象とした研修・交流の機会の提供（福島大学主催事業、2023年度）

	日程	企画名・内容	会場	講師等	参加人数
1	10/23	福祉とまちづくり研修ワークショップ「介護技術だけではなくお年寄りが輝けるまちづくり」	トータルサポートセンターとみおか（富岡町）	株式会社楽天堂 佐藤伸一	11
2	2/8	福島大学地域づくり研修会「地域とコンビニの可能性について深掘り！」	飯舘村交流センターふれ愛館（飯舘村）	株式会社セブンイレブン・ジャパン	7

## (6) 福島大学市民講座の開催

12市町村自治体や住民のニーズに応じた、福島大学教員や外部講師等による、市民講座を開催し、

福島大学等の学知や、相双地域支援サテライトのネットワークを活かした、地域復興支援を【表6】の通り行った。

【表5】No.1と【表6】No.2の事業は、ともに富岡町役場職員からの「今後の浜通りでのまちづくりには福祉が重要」との提案と講師の紹介で実現したものである。

また、【表6】No.1の事業は、10月28日(土)に浪江町で実施された相双地方総合防災訓練に向けて、同町役場職員からの要望により同町幾世橋地域住民を対象に実施したものである。

【表6】福島大学市民講座（福島大学主催事業、2023年度）

	日程	企画名・内容	会場	講師等（敬称略）	参加人数
1	9/30	幾世橋地域の「災害危険箇所」を確認しよう! ぼうさいまち歩き	なみえ創成小中学校 (浪江町)	福島大学行政政策学類 准教授 西田奈保子 他	36
2	11/23	楽ワザ介護セミナー in 楡葉町 福祉とまちづくり ～ともに生きる地域を作る～	ならばCANvas	ケア・プロデュース RX 組 代表 青山幸広	21

#### (7) 災害の記憶や地域の歴史・伝統等の伝承支援

12市町村における地域の歴史・伝統や、東日本大震災・原子力災害の記憶を、移住者や訪問者に伝承することを通して、地域社会の過去と未来を接続し、コミュニティの連続性を形成するために取り組んだ。

今年度は楡葉町において、2023年8月19日(土)に実施された「ならば百年祭」での「楡葉音頭」の由来や歌詞についてのパネル作成のための調査・取材に協力した。

また、大熊町においては、サテライトスタッフが中間貯蔵施設内の神社や地域の生活に根ざした施設の案内を、おおくままちづくり公社からの依頼で、同公社職員等を対象に実施した。また、同町内にある野上諏訪神社の文書の整理等のニーズを把握した。

#### (8) 復興住宅等での支援活動および「ふるさと」との交流支援

大熊町の大川原地区にある復興住宅住民を含むコミュニティ団体「おおがわら会」の運営をサテライトスタッフが支援した。また、福島県中通りにある復興住宅等への福島大学生による支援活動等に参加し、ニーズの把握等を行った。

また、県外避難者の支援・交流事業として、福島大学災害ボランティアセンターと協力しての群馬県前橋市でのイベント実施を3月16日(土)に予定している。

#### (9) 福島大学、福島国際研究教育機構（F-REI）と連携した支援

浪江町役場が主催する「F-REI門前町の価値向上・魅力向上勉強会」の全4回（8月31日(木)、10月5日(木)、12月4日(月)、1月25日(木)に実施）に協力した。同町役場の依頼により、サテライトスタッフの他、浪江町に関わる福島大学教員のゼミの学生等に参加を呼びかけ、8月31日(木)実施の回に1名、10月5日(木)実施の回に4名、福島大学生が参加した。

### 1-2 教育環境整備支援

#### (1) 教育現場が抱える課題の把握

教育環境整備支援担当スタッフ2名で、支援活動のために訪問した際等に、12市町村の幼稚園・こども園、小学校および中学校等の教職員にヒアリングし、教育現場の課題の把握を行った。把握した課題に応じて、ワークショップや、その他の企画などを実施した。

## (2) 教育環境整備に向けたワークショップの開催

12市町村の幼・小・中学生を対象としたワークショップを、教育現場のニーズに応じ【表7】の通り開催した。

【表7】教育環境整備に向けたワークショップの開催（2023年度）

	日程	内容	対象	講師	参加人数
1	5/13	移動式プラネタリウムによる星空教室	なみえ創成小学校児童	夢のほしぞら配達 橋本靖之	13
2	7/19 1/24	美術指導	双葉中学校生徒	福島大学人間発達文化学類 教授 渡邊晃一 他	10 9
3	7/24 7/25	時計組立教室	楢葉小学校児童 にじいろこども園園児 なみえ創成小学校児童	日本時計協会 各社エンジニア	46 17
4	8/21 9/25 2/19	ミニコンサートと楽器のワークショップ	楢葉小学校児童、楢葉町地域学校協働センタースタッフ、楢葉町民等 かわうち保育園園児、川内小中学園児童、放課後こどもクラブスタッフ、川内村民等	福島大学人間発達文化学類 教授 中畑淳 他	37 27 30(見込み)
5	9/11 9/13 9/15	木育ワークショップ	なみえ創成小学校児童	Fimstudio 渡部昌治	12 11 11
6	9/12	理科実験教室	にじいろこども園園児、なみえ創成小学校児童	NPO法人ガリレオ工房 白 敷哲久 他	39
7	9/26	影絵の公演	ふたば幼稚園園児、園長、副園長、保育職員 双葉南・北小学校児童	福島大学 児童文化研究会	11
8	10/ 6	川内小中学園 福島大学キャンパスツアー	川内小中学園9年生	福島大学 食農学類 准教授 窪田陽介 教育推進機構 准教授 前川直哉、特任准教授 千葉偉才也 総務課広報係	6
9	10/10 11/22	陸上競技体験	なみえ創成小学校児童	福島大学人間発達文化学類 准教授 蓮沼哲哉 他	42 35
10	11/16	身体表現ワークショップ	双葉中学校生徒、校長、教頭、教員	コンテンポラリーダンスユニット んまつー波斯	15
11	11/17	体力向上のための体操教室	ふたば幼稚園園児、双葉南・北小学校児童	NPO法人日本Gボール協会 長谷川聖修、筑波大学大学院生	26
12	1/15	五感を刺激する音楽ワークショップ	ふたば幼稚園園児	福島大学人間発達文化学類 教授 杉田政夫 他	7
13	1/17	演劇鑑賞	ふたば幼稚園園児 双葉南・北小学校児童 双葉中学校生徒 教職員	劇団120〇EN	81

## (3) 保育職員などに対する指導支援

桜の聖母短期大学の堺秋彦教授の協力を得て、【表8】を主催事業として実施した。また、楢葉町地域学校協働センター主催の、【表9】の事業をサテライトのコーディネートにより支援した。

【表8】 保育職員などに対する指導支援（福島大学主催事業、2023年度）

	日程	内容	対象	講師	参加人数
1	9/13	園児の体力向上を図るプログラムの実技指導と懇談会	ふたば幼稚園 保育職員	桜の聖母短期大学生活科学科 教授 堺秋彦	8

【表9】 保育職員などに対する指導支援（楡葉町地域学校協働センター主催事業、2023年度）

	日程	内容	対象	講師
1	5/24	子育てプチ講座 子育てにおけるメディアコントロール、幼児期の運動能力を高める遊び	あおぞらこども園 保育職員・保護者等	桜の聖母短期大学生活科学科 教授 堺秋彦
2	10/21	楡葉町 天神岬スポーツ公園 親子交流レクリエーション	あおぞらこども園他 園児・保護者等	桜の聖母短期大学生活科学科 教授 堺秋彦
3	12/20	子育てプチ講座 幼児期に育みたい「こころ」と「からだ」づくり、子どもを育てる毎日の関わり方のコツ	あおぞらこども園 保育職員・保護者等	桜の聖母短期大学生活科学科 教授 堺秋彦

#### (4) 大学生等による部活支援

12市町村では児童数が少ない学校が多く、大学生等による部活動への支援への要望が多い。2023年度は【表10】の事業を実施した。

【表10】 大学生等による部活支援（2023年度）

	日程	内容	対象	講師	参加人数
1	8/7	バドミントン部指導	双葉中学校バドミントン部	筑波大学バドミントン部	7
	11/10				5
	11/11				3
	12/15				5
	12/16				4

#### (5) 12市町村の中学生を対象とした交流企画

12市町村では、ひとつの自治体では子どもの数が少なく、地域内で人間関係等が固定化され、高校進学で地域を出ると、生徒によっては新たな人間関係になじめず不登校等になる場合があるという課題を、教育現場から聞き取った。また、近くに高校や大学がないため、高校生活、大学生活をイメージしにくいという課題もあるとのことだった。

そこで、それらの課題の解決のため、普段交流のない他地域の中学生が大学に集まりワークショップ等を体験することでコミュニケーション力を鍛えることと、実際に大学を訪問することで将来のキャリアを考える機会をつくることを目的に中学生交流企画「福島大学へ行こう！大学生活ちょこっと体験」を3月30日(土)に実施する予定である。

本企画は12市町村の中学生を対象に参加者を募集し（定員20名）、会場である福島大学で、①大学構内見学・大学概要説明、②模擬講義(ペッパー君を使用したプログラミング)、③交流ワークショップ(大学生と一緒に考える防災)等の内容を体験してもらう予定である。

### 1-3 成果の普及（情報発信、シンポジウム等開催）

#### (1) 被災地復興状況の情報発信（「相双の風」・Webサイト等）、「ぐるぐるMAP」の発行

12市町村の現状と、相双地域支援サテライトの取り組みを発信するためのニュースレター「相双の風」（A3二つ折、両面カラー）を【表11】の通り、発行した。2023年度から、見開き部分の特集として、サテライトの取り組み内容のうち、特定のテーマを取り上げている。

配布先は、12市町村の自治体、教育委員会、学校、団体および個人の他、福島県内の自治体や団体、福島県外の団体等に郵送している。

【表11】「相双の風」発行状況（2023年度）

号数	特集	発行月	部数
34号	相双地域支援サテライト2023年度事業計画他	2023年6月	4,000部
35号	浪江町 産官学民で防災推進—取り組みと課題	2023年9月	3,700部
36号	インターンシップから広がる 学生・企業・地域の協働	2023年11月	3,500部
37号	「課題」を「強み」に 双葉町 避難先での教育環境	2024年3月	3,500部

12市町村の復興状況を示した「ぐるぐるMAP」については、2023年2月に発行したものについて、12市町村内の観光施設等からの要望に応じて、2023年6月に25,000部増刷を行った。

その他、2023年9月にはサテライトのリーフレットを新たに1,000部作成した。

またWebサイト（<https://satellite.net.fukushima-u.ac.jp/>）においても、12市町村でのサテライトの取り組みを発信し、12月にはX（旧Twitter）のアカウントも開設し、情報発信を行っている。

## (2) 相双地域支援サテライト活動成果の普及

活動成果の普及のため、以下のイベントに参加した。

### ① すみだ食育フェス2023：2023年6月15日(木)～18日(日)

東京都墨田区主催の「すみだ食育フェス2023」会場の墨田区役所内にブースを出展し、サテライトの広報紙「相双の風」等を展示、配布する他、来場者に向けての業務説明、これまでの取組の紹介等を実施した。初日は100名程が来場した。

### ② ぼうさいこくたい2023：2023年9月17日(日)～18日（月・祝）

防災推進国民大会実行委員会（内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）主催の「ぼうさいこくたい2023（第8回防災推進国民大会）」に、会場の横浜国立大学において、屋外ブースを出展し、サテライトを含めた地域未来デザインセンターにおける防災の取り組み等を紹介した。ブースには両日でのべ1,000名の来場があった。

サテライトとしては、楢葉町地域学校協働センターと連携して、楢葉小学校の小学生3名と福島大学災害ボランティアセンター学生3名による震災学習と防災の取り組みの紹介を、のべ250名を対象に実施した。報告を聞いた来場者からは「(小学生の報告が)立派だった」「言葉に胸打たれた」「大変素晴らしい企画で、メッセージ性があるだけでなく、大学生と小学生が仲良く説明するスタイルのよさと効果の高さを感じた」等のコメントが寄せられた。また参加した小学生からも、「いろいろな人と関わることの楽しさを初めて知った」というコメントがあった。

## 2 総合科目「災害復興学」の開講

東日本大震災・原子力災害が発生した2011年の翌年2012年から、地域未来デザインセンターの前身のひとつである「うつくしまふくしま未来支援センター（FURE）」が、総合科目「災害復興支援学」を開講してきた。

その取り組みを引き継ぎ、2023年度には「災害復興学」と名称を変えて開講した。本年度からの新たな試みとして、受講者に、授業外に、被災地でのフィールドワーク、ボランティア活動等に取り組み、その